



人生初だらけの症例報告

☆推薦文☆

深瀬先生、症例報告の受理、おめでとう。2019年12月から取り組んで、1年以上かかりましたが、ご自身の経験を記録に残しておくことは非常に大切です。苦勞しただけに、喜びも大きいと思います。深瀬先生の勤務する大蔵村は、山形県の中でも早期に新型コロナウイルス感染症が発生したようですが、先生はご自身の取り組みを、月刊地域医学34(12):1020-1025(2020)にまとめて報告しています。またご自身で作成した「大蔵村版 新型コロナウイルスの説明書」という分かりやすい資料を、大蔵村のホームページに出して、情報提供しています。地域医療として、大変素晴らしい取り組みだと思い、感銘を受けています。

今後、更に緩和ケアに取り組まれるのだと思いますが、もし研究に取り組む機会があったら是非チャレンジして、自身を成長させていってください。

昭和大学医学部内科学(糖尿病・代謝・内分泌内科学部門)
長坂 昌一郎(自治医科大学・東京都8期卒業)

大蔵村診療所 深瀬 龍 (山形県 36期卒業)

山形36期卒業の深瀬龍です。後期研修中の経験を長坂先生・松原先生のご指導の下で自治医大紀要に症例報告させて頂きました。症例のポイントを含め、報告させて頂きます(Fukase R, Okuyama S, Kurihara F, Kamiya K, Matsubara S, Nagasaka, S. Hyperosmolar hyperglycemic state in a patient receiving corticosteroids in palliative care: A case report. Jichi Medical University Journal)。



私は後期研修として緩和ケアを選択し、山形県立中央病院・山形県立河北病院で研修させて頂きました。末期癌や非がん疾患の終末期と向き合う中、経験したのが「末期癌患者の高血糖高浸透圧症候群(以下HHS)」です。ご存知の方も多いかと思いますがHHSは高血糖緊急症の1つで、2型糖尿病を持つ患者に脱水やストレスなどの負荷がかかることで発症します。今回の事例は元々糖尿病の既往がある患者さんでした。末期癌の倦怠感を改善させるために緩和ケアでは副腎皮質ステロイドを多用するのですが、今回は副腎皮質ステロイドが逆にHHSの引き金となり、倦怠感をさらに悪化させてしまいました。緊急入院となった際の採血で、随時血糖が1000を超えておりびっくりしたことは未だに記憶に残っています。本来のHHSであれば大量補液とインスリン投与で治療しますが、末期癌患者では大量補液が逆に全身浮腫や胸水・腹水の悪化などのデメリットに繋がりがねないため治療方針の決定に一考が必要でした。緩和ケアの予後予測ツール(Palliative Prognostic Index, Palliative Prognosis Score)から治療に耐えうる予後が残されていると判断し、今回はHHSの治療に踏み切りました。結果としてHHSの改善と共に身体症状も軽快し、歩いて退院した姿がと

でも印象的でした。

この経験を形に残したいと考えて最初は我流で論文作成に挑みました。何とか仕上がった論文を初めて投稿したところ、「論文の体を成していない」と一蹴されて凹んだことを今でも覚えています。1人でゼロから論文を作ることはできないと痛感して、CRSTに相談してみることにしました。数日も経たないうちに松原先生から「貴重な経験であり、論文になりうる内容だと思う」とコメント頂き大変嬉しく思いました。その後、長坂先生に丁寧な指導を頂き、ようやくきちんとした論文に落とし込むことができました。

僻地勤務の中で論文作成のための時間を確保すること・論文になりうる症例に出会うことは決して難しくないと思います。しかし、実際に論文として書き上げるにはやはりサポートが必要であることを実感しました。自分の中で一生懸命やっても、やはり他人の目がなければ独りよがりになってしまいます。長坂先生・松原先生という先人からの助言の中で、自分の視野がまだまだ狭いことを痛感することができました。

今回のAcceptまで数回のRejectを頂いています。最初は凹みましたが、今振り返ればRejectも挑戦したからこそ得られる成果です。なかなか色良い返事が貰えない中で指導頂いている両先生への申し訳なさや自分の実力不足を悔やむこともありましたが、それも挑戦しなければ得られない感情でした。

今回の私の経験を読んで、自分も挑戦してみたいと思う方が1人でも増えれば幸いです。

最後になりますが、緩和ケアというマイナーな領域のケースレポートを自身の専門分野外にも関わらずご指導頂いた長坂先生・松原先生には心から感謝申し上げます。先生方のご指導を下地に、引き続き研鑽していきたいと思えます。

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<https://grad.jichi.ac.jp/>